



島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：鎌田陽子
(出雲市立神戸川小学校)

編集：広報部

VOL.50 2014.3.3 (雛祭号)

発行責任者 安田あけみ (久手小学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 「つなぐ」～会報『爽』50号に寄せて～(副会長)
- ▶ 大田市事務グループの取組
- ▶ 学校事務セミナー参加者の感想
- ▶ 人権コーナー
- ▶ 県外研修に参加して
- ▶ 事務歳時記
- ▶ 事務局より
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



「つなぐ」～会報『爽』50号に寄せて～

副会長 渡邊博文

1997年12月にこの『爽』の第1号が発行され、今回で50号の発行を迎えることができました。それまでは、「事務局だより」という名称で、島根県公立小中学校事務職員研究会（島事研）の情報や活動を会員の皆さんにお知らせしていた。この年、一旦廃止された事業部が再スタート、「たより」ではなく広報紙の刊行が必要ではないかとの提案で、広報部が年3回の発行を続け、現在に至っている。

さて、ソチでは冬季オリンピックが開かれ、東日本大震災の被災者であるフィギュアスケートの羽生選手が金メダルを獲得した。「3.11」以降、彼は復興に向け「自分に何ができるか」を常に考えていたと聞く。

2020年に東京で2度目のオリンピックの開催が決定しているが、前回、東京オリンピックが開催された1964年（昭和39年）に、島根県内の公立小・中学校に初めて学校事務職員が配置された。今年で50周年という節目の年となる。

島根県公立小中学校事務職員研究会は、配置6年後の1970年（昭和45年）に発足するが、前年まで、各地の代表者が幾度も集まり、研究会組織の必要性、重要性を確認し、結成に至ることができた。

ずいぶん前になるが大先輩にお話を聞くことができた。当時島事研発足に向け、益田からの代表者は、仁万までの往復200kmの道程をバイクで何度も足を運び、「はじまり」に期待と興奮を隠せなかったそうだ。

これまで、多くの先達に学び、導いていただきながら、現在の島事研につながっていることに心より敬意を表したい。

『爽』第1号発行の折と50号を迎える今回、偶然にも副会長職を務めることとなったこのめぐりあわせに感謝したい。しかし、「私に何ができたか」と問われると、果たして皆さんの期待に応えられたか不安で一杯である。

昨年度から島事研の研究目標は「情報共有によるつなぐ役割への発展」としている。「つなぐ」をキーワードに実践と共有がなされてきた。



人と人をつなぐのは「縁」である。「運は一瞬、縁は一生。ご縁の国しまね」（島根県観光PRキャンペーン）。この「ご縁」を紡ぎ、また、はじまりの季節を迎える。来年度も島事研活動への積極的な参加をどうかよろしくお願いします。

大田市

学校事務グループ活動 の取組について

大田市の事務グループの取組については、第44回島根県公立小中学校事務研究大会研究集録、島事研ホームページ「今年度の各地域事務グループの取組」に紹介をしているので、そちらをご覧ください。ここでは今年度からの新たな取組と活動への評価を中心にお知らせします。



最初に、大田市教育委員会
大國晴雄教育長からの
メッセージです。

学校事務Gの良い実践モデルを目指して

学校を支える様々な職種の職員の中にあつて、学校事務職員の皆さんはその中心的存在であり、さらに昨今は「地域とともにある学校、地域で支える学校」が求められており、特に学校事務職員に期待されるところが大きくなっています。

いっぽう、事務職員の皆さんは、一人で勤めている方も多いだけに、これまでその力を発揮し、創意工夫や改善策がすぐには実現できなかった面もあったらうかと思ひます。

そうした面を打開すべく始まったとも言える、事務グループ活動の中にあつて、大田市における平成25年度からの教育委員会事務局連携の新たな取組がもっと進み、“良い実践モデル”となることは、島根県の学校事務全体や学校教育活動の実力増進に繋がっていく一助となれるものと思ひます。

この“良い実践モデル”への取組は、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」とも通じるものです。世界遺産もいわば“実践モデル”なのです。

世界遺産も学校事務も、大田市が良い実践モデルとなれるよう皆さんと手を携へ、スクラムを組んで取り組んでいきます。

平成22(2010)年度からの大田市の事務グループ(当時;共同実施会)の取組の評価を管理職、教務主任、事務職員を対象に行ってきました。評価項目は全事研が使用していたものです。

評価項目	取組内容等の説明	平成25(2013)年度					平成24(2012)年度					平成23(2011)年度					平成22(2010)年度				
		校長	教頭	教務	事務	全体	校長	教頭	教務	事務	全体	校長	教頭	教務	事務	全体	校長	教頭	教務	事務	全体
1 事務業務の適正化	○各事務グループでの諸手当認定、扶養手当等・被扶養者の検認、年末調整、旅費請求等の事務処理の情報交換、相互チェック等の実施 ○人事部の各種手当の認定と検認ナビの作成 ○旅費事例集の編集	3.10	3.50	3.32	3.20	3.29	3.22	3.30	3.50	3.10	3.26	3.13	3.29	3.33	2.94	3.17	3.21	3.04	3.34	2.83	3.10
2 事務処理システムの構築	○文書共同受付システム、文書発送システム ○市内児童・生徒数集計システム ○備品管理システム ○「就学援助書類作成おたすけくん」システム ○校務支援システムの検討 ○Access2013の導入	3.29	3.59	3.50	3.40	3.47	3.44	3.68	3.39	3.40	3.48	3.19	3.35	3.40	3.00	3.23	3.04	2.71	3.11	2.56	2.85
3 事務業務の規程整備	○大田市学校物品管理規程 ○大田市学校物品管理事務の手引 ○「大田市学校備品管理システム」操作マニュアル ○就学援助事務の手引 ○大田市立学校文書管理規程(案) ○文書管理の手引(案) ○大田市学校会計等取扱要綱及び運用方針(案)	3.05	3.50	3.21	3.35	3.32	3.06	3.00	3.15	2.95	3.03	2.63	2.47	2.80	2.39	2.56	2.66	2.46	2.73	2.25	2.52
4 事務職員のOJT推進	○事務グループで集まることにより、情報交換等でお互いの資質向上が図られる ○事務職員が共同で業務に取組むことで、相互の事務能力の向上 ○研修会を通しての資質向上	3.38	3.50	3.22	3.40	3.43	3.06	3.42	3.31	3.28	3.26	3.19	3.35	3.21	3.11	3.22	2.76	2.66	2.44	2.91	2.69
5 教育委員会との連携強化	○グループウェアの導入 ○年間指導計画、学校行事等の経費調査による学校予算の確保 ○規程、手引整備 ○市教委で行う事務グループ業務の推進	3.43	3.36	3.11	3.55	3.43	2.58	3.11	3.00	2.60	2.81	3.06	3.24	2.93	2.61	2.95	2.50	2.42	2.47	2.31	2.43
6 行政サービスの向上	○教育費の保護者負担軽減 ○就学保障(就学援助、就学奨励等)に関する情報提供 ○合銀の口座振替データ、総合振込の一括処理	3.29	3.46	3.53	3.00	3.39	3.00	3.26	3.17	2.55	2.99	2.63	2.88	3.13	2.67	2.82	2.92	2.83	2.95	2.40	2.78
7 学校経営への参画	○年間指導計画に基づく経費調査等による学校財務からの学校運営への参画 ○学校予算の一元化(公費、私費の体系化)	3.10	3.46	3.42	2.26	3.16	3.21	3.32	3.47	2.20	3.03	2.88	3.12	3.20	2.78	2.98	3.11	3.07	3.14	2.15	2.86
8 担当校務分掌の拡充	○事務グループ活動により各校での事務職員の分掌が拡充 ○事務・業務の効率化による分掌事務の見直し ○学校評価集計を担当	2.80	3.23	3.12	2.25	2.95	2.63	3.00	3.14	2.20	2.71	2.75	2.94	2.93	2.61	2.80	2.87	2.67	3.05	2.37	2.74
9 校内事務業務の効率化	○事務グループ活動により各校での事務業務の効率化への見直し ○パソコンでの事務処理の効率を高めるためのソフトの提供 ○学校評価支援システムSQSの導入	3.14	3.09	3.37	2.80	3.21	3.16	3.16	3.27	2.50	3.00	2.81	3.24	3.27	2.56	2.95	3.18	3.09	3.56	2.43	3.06
10 経費削減(有効活用)	○プール水質検査の取りまとめによる検査料の削減 ○事務グループでの情報交換による購入物品の見直し	2.86	3.23	3.16	2.55	3.07	3.00	3.26	2.92	2.83	3.01	2.81	3.06	3.07	2.72	2.91	2.70	2.81	3.06	2.63	2.80
11 教育支援	○スクールバス活用支援 ○夏休み作品募集一覧、遠足等使用施設をサーバーにアップ ○職場体験活動への支援	2.95	3.23	3.55	2.50	3.19	2.94	3.26	3.40	2.45	2.99	2.94	3.00	2.93	2.50	2.83	2.86	2.80	3.29	2.06	2.75
12 教員の負担軽減	○サーバーの活用による情報の共有化での負担軽減 ○会計の一元化による負担軽減 ○職場体験活動事務局の支援	3.29	3.41	3.63	2.95	3.46	3.21	3.42	3.59	2.60	3.19	3.06	3.06	3.60	2.72	3.09	2.97	3.07	3.27	2.11	2.86

評価基準： 4大変成果があった 3やや成果があった 2どちらともいえない 1成果がなかった

取組内容は、継続している業務・活動、新規の活動等を挙げていますが、意見として取組が見えない、PR不足を指摘されています。しかし、数値的には年々成果が上がってきていると思ひます。

事務グループ活動も制度化されて3年が終わります。学校教育、教育行政の動向を感じながら見直していく必要があると考えています。

市教委に机を置き、事務グループ業務に取り組んでいます！

事務グループで行う業務

平成 24(2012)年度までは…

- (1) 共同または一括して処理を行うことにより適正化・効率化が図れる事務・業務に関すること。
- (2) 事務処理体制の整備・改善に関すること。
- (3) 学校運営への参画および教育支援に関すること。
- (4) 事務職員の未配置校の支援に関すること。
- (5) その他必要な事項に関すること。



平成 25(2013)年度からはさらに…

— 事務職員が市教委で行う事務グループ業務 —

◆ 趣旨・目的

小中学校と大田市教育委員会（市教委）との情報共有や意思疎通を円滑にし、学校事務・業務の効率化や効果的な運営を進めるため、学校事務職員が市教委総務課で、大田市の事務グループに係る業務を行う。

◆ 市教委で担う業務

市教委が行う学校事務業務で事務グループに関わる業務の情報の共有化、改善、整備、見直し、連携に関すること。

ただし、市教委の本来業務の担当を学校事務職員に置き換えることにならないよう、学校事務グループの目的に合った業務とする。

今までは各学校でそれぞれ処理していた業務を「市教委で事務グループ業務を行う事務職員」が一括して処理することにより、各学校の事務職員や教職員の業務負担を減らし、今まで以上に教育の支援ができる環境や、子どもと向き合う時間を確保することを目指しています。

◆ 今年度取り組んだ主な業務 ◆

- ・保護者あて通知の一括作成
（就学援助費、就学奨励費、通学費、スポーツ振興センター給付金、就学時健診、校区外就学 等）
- ・中学校職場体験事業の支援 ・口座振替一括処理（4月より） ・市教委発文書の事前受付
- ・学校事務ポータルサイト（仮称）の設置 等

第10回

島根県学校事務セミナー

参加者の感想

開催日
1月28日

会場
パルメイト出雲

- (1) 実践研究発表
平成25年度文部科学省指定
「校務の情報化による教育の質の向上・学校運営の改善に資する実践研究」
松江市教育委員会 学校教育課長 岩田 靖
松江市立第四中学校 校長 福頼 敬二
主幹 山内 由美子
主事 三代 千恵
- (2) 講義
講師：茨城大学教育学部 准教授 加藤 崇英
「学校事務職員が『つなぐ』、その可能性と展望」
- (3) 行政説明
島根県教育委員会義務教育課
義務教育推進グループ
グループリーダー 田邊 和佳子

セミナー全体を通して

今回の事務セミナーは、実践研究の発表や演習を交えた講義の中で、『つなぐ』というキーワードがたくさんでてきた1日でした。学校内での『つなぐ』はもちろん、10年後には3割の先輩方がいなくなるという状況で、事務職員間でも、『つなぐ』役割が必要だと思いました。

津和野町立津和野中学校
田村友里

講義について

講義を受けて、学校のマネジメント課題の変容から今の学校には「つなぐ」役割が重要になってきていることが理解できました。

また、演習を通して、普段あまり見直す機会がない日々の仕事についてじっくり考えることができ、私も人と人やモノとモノをつなぐ役割を果たす仕事をしていることに気付くことができました。これからは、学校内外で自分にできるつなぐ役割を探して取り組んでいきたいと思っています。

出雲市立第三中学校
高橋未希子

『つなぐ』役割について

加藤先生の講義を受けて、事務の仕事について改めて考えることができました。今していることが、「どうつながっているのか」また「どんなつながりを創っていくのか」と考えながら、業務改善に努めたいと思います。

美郷町立大和中学校
荒河洋美



学校事務セミナーに初めて参加しました。加藤先生の講演では、日々変容している学校教育に対し、事務職員はどう対応し、どうマネジメントしていけばいいのか、立ち止まって考えることができました。ただ、私にはちょっとハードルが高いなと思ったのが素直な感想です。

業務をこなしていく中で「つなぐ」役割や意義というのは、学校で働くものとして重要であり、教育を支援するために教職員と連携・協力しながらよりよい学校づくりが出来たらと思います。

隠岐の島町立都万小学校
中西文江

文科省表彰2名の紹介に心が弾みました。又、今後の採用展望や、採用者訪問時の感想等、生き生きとした説明に元気ももらいました。特に事務グループ支援については評価いただいていると感じ大変嬉しく思いました。

松江市立宍道中学校
竹内紀美

行政説明について

実践研究発表について

文部科学省の指定を受けた研究の中間報告であったが、情報発信として学校のHPを毎日更新するとかタイムリーに総体の結果をアップするなど、保護者や地域の方に親しみやすいHPになっていると感じた。

また、保護者へのアンケートは、県教育センターが紹介した“SQS”システムで入力さえすれば、集計結果がすぐでるという手間と時間がかからないシステムの活用により、アンケート結果がすぐ生かせるという利点を感じた。

香川県 事務職員



「心は生きています」

松江市立津田小学校

内藤 美智子



最近、少し物忘れが多くなった義母が、何度も同じことを聞いてくるようになった。「さっきも同じことを言ったのに・・・」と思いつながら、私は笑って同じ答えを繰り返す。あんなにしっかり者だったのに、どうしちゃったんだろうと悲しくなったりする。

私には、3人の子どもがいるが、仕事で遅くなることの多かった私が今まで働いてこられたのは、いつも義母が子どもたちの面倒をみてくれたからだと感謝している。それなのに、時々わからないことをいう義母にいらついている自分に気づく。

そんなとき、6年生が認知症についての学習をするというので授業を見せてもらった。その中で、講師の方の「心は生きています」という言葉が心に響いた。「認知症の人は不安を感じている。叱られたことにより不快感が残る。叱っていなくても、強い口調だと叱られたと感じてしまう。認知症になったからといって感情までなくなるわけではない。本人は傷ついている。」と。

考えてみれば、一番困っているのは本人なのだ。私だって自分を認めてほしい。認められればやる気になる。多くの人たちとつながりを持っているから安心していられる。相手への感情は態度にも表れ、本人にも伝わる。私は、無意識に義母を傷つけていたのかも知れないと自分の態度を反省した。これまでお世話になった尊敬や感謝の気持ちを持ち続けて、義母と接していきたいと思つ。

学校マネジメント フォーラムに参加して

美郷町立邑智中学校
主事 久保田 雅之

11月8日(金)、文部科学省にて学校マネジメントフォーラムに参加しました。フォーラムの様子はインターネットで中継されていたので、ご覧になった方もおられると思います。

各県の事例発表の中で、岐阜県下呂市の取組は事務部会と市教育委員会との良い連携をされていました。多くの市町村が平成の大合併から10年近く経ち、合併算定替分の地方交付税が減額されていく中で、地方財政、ひいては学校予算も削減すべきところは削減しなければなりません。その中で、予算が余っている学校から不足している学校へ予算を再配分する取組は、学校予算を効率よく運用する良い事例だと思います。この取組は、学校現場と市教委との密な連携があつてはじめて成り立ち、事務職員と市教委との連携の重要性を改めて感じました。

また、三重県では事務職員の研修を県教委へ出向した事務職員が担当していて、現場に沿った研修を目指して研修を企画されていました。特に新採研修は年間17回ととても多く、新採職員が先輩職員の学校を訪問して一日過ごし、普段見ることの出来ない一日の仕事の流れを実際に見ることが出来て、とても充実しているようです。自分の新採一年目を思い返すと、このような研修があると嬉しいです。

様々な講演や報告がありましたが、我々学校事務職員に求められていることの一つは「連携」だと感じました。職員同士の連携、保護者や地域との連携など連携の仕方は様々ですが、一人でも多くの人とつながる事が重要です。私も、学校がもっと良くなる「連携」を模索していきたいと思つ。

県外研修に参加して



事務歳時記

久屋小学校
森山 訓

木枯しや あいさつ当番 負けもせず
寒い北風が吹いてくる季節となってきた。朝、昇降口のところで子どもたちが数人立っていて、登校してくる人に「おはようございます」と大きな声であいさつをしている。木枯らしが吹こうと子どもは風の子である。



学校の にぎわひもどる 三学期

正月の喧騒もどこかへ過ぎて、また三学期が始まっている。静かだった校舎にも、いつものようににぎやかな声が響いている。新年の決意や今年の計画など、せめて三日ぐらいはその通りにふるまいたいものである。

順序よく 大人で終わる 春の風邪

インフルエンザが流行している。最近はず防疫注射のおかげで罹患しないこともあるが、学級閉鎖や臨時休校などのところもある。体力的に、まずは幼少期の子どもから罹患して最後にはその親がダウンして終息する。

歩みだす まずは一歩を 卒業す

卒業式がある。小学校の六年間を元気に過ごせたことに感謝する。ランドセルも小さくなって、これからは肩掛けバッグで通うのか。人生の、まずは一歩を前に踏み出して、新たな道へ進んでいくための卒業でもある。



事務局よい★



島事研事務局長 梶岡純子

会員のみなさまには平素より島事研活動につきましてご協力いただきありがとうございます。お陰様で、研究大会・セミナー等、盛会裡に終了いたしましたことをこの紙面をお借りしてお礼を申し上げます。また、毎年実施している事務職員調査のデータは、県教委・教育センターとの情報交換や、第5次研究中期計画の基本データとして活用する等、有効に活用させていただいています。

さて、平成22年度より新規採用事務職員について、県教委・教育事務所等からの『学校訪問』が実施されています。セミナーの行政説明の折に、義務教育課田邊GLから、どの地域でも事務グループとしての支援体制が有効に機能しているという感想がありました。世代交代に向けて新規採用者や若年経験者に対する研修が充実するよう、県教委や県教育センター等の関係機関へはたらきかけていく役割も島事研の大切な仕事の一つだと思います。

また、平成25年度文部科学大臣優秀教職員表彰において、本会会員の大田市立第一中学校 立脇 渉さん、出雲市立荘原小学校 高橋勇二さんのお二人が島根県公立小中学校事務職員として初めて表彰を受けられました。とても光栄なことであり、私たちの励みにもなる出来事でした。

今後とも会員、関係諸機関の皆様のさらなるご支援ご協力をお願いいたします。

【編集後記】今年度最後の『爽』、雑祭号の発行ができ、とてもうれしく思います。さて、広報部に所属し4年が経つのですが、不思議とこの広報部という場所は、ほとんど苦にはならないのです…。もちろん日常の仕事にプラスされて広報部の仕事をするわけですが、なぜかそんなに苦にはならないのです。逆に得をした気分になってしまいます。…あ…まずは、この作業を無事終えたことに、広報部のメンバー、そして快く原稿を引き受けてくださった方へ深く感謝申し上げます。ありがとうございました。 D.I

Vol. 27 おたん



原作：千葉ひろみ 画：大橋幸子